

「村を救った子ども達」 安政の地震津波

1854・11・4（現歴 12・23）

①江戸時代、古和浦の庄屋・岩吉は暇があると子どもたちを集め、この土地の話を聞かせた。

特に、庄屋の家に代々伝わる文書に書かれている「宝永の地震」(1707・10・28)のことは詳しく話した。

子供たちは、岩吉から「大地震があって、津波が来ると思ったら山へ逃げないかん。」と教えられ、家に帰ってから家族にもその話をした。

※ 〈絵作成〉 庄屋と話す子どもたち

〈セリフ作成〉 庄屋と子どもたちの会話

* 宝永地震…南海トラフを震源とする地震。13～14 時頃発生。M8・6（推定）。

鳥羽で震度6（推定）。到達した津波の高さは、鰐浦で8～11m。

* 古和浦での被害…家屋流失 138 軒。死者 65 人

②その年の6月14日の昼すぎ、昨夜の小さな地震に 続いて、大きな地震があった。

子どもたちは、口々に「地震だー」「山に登れー」と叫びながら、山へ登り始めた。

子どもたちの親を含む、多くの大人がそれに続いて山に上った。

その日は夜にかけて、さらに2度地震があり、地震や津波の恐怖から8日間も山を下りられない者も現れた。

村では、山に逃げたことについてうわさ話がなされた。

※ 〈絵作成〉 子どもについて山に登る大人たち
〈セリフ作成〉 山に登る子どもたち、村での噂話

③その年の 11 月 4 日の朝は、西の風が吹く穏やかな日だった。

朝 8 時すぎ、突然地面が大ゆれにゆれて、立ってられないほどの大地震が起こった。

人々のある者は地べたに座り込み、ある者ははいつくばった。

子どもたちは皆大声で泣いた。

※〈絵作成〉 地震の様子

〈セリフ作成〉地震に逢った人々の言葉。泣く子どもたち。

④しばらくして地震は治まった。

子どもたちは岩吉の言葉を思い出し、前と同様に
叫びながら山へ登った。

その後ろから、老人たちを中心とした村人たちが
山に登った。

その頃、村には津波が迫っていた。

※ 〈絵作成〉 山へ逃れる人々
〈セリフ作成〉 子どもたちの声。村人の反応。

⑤しばらくすると、海の方から助けを求める声が聞こえてきた。声のする方を見ると、辺りは一面の海原となっていた。

海辺の家はほとんど屋根まで浸水していた。

声の主は船の上で網を直していた老人だった。

村人たちは何とかできないかと考えたが、津波による引き波によって船は転覆し、村人たちの目前で老人は波にさらわれた。

※〈絵作成〉 波間に浮かぶ老人と、それを山から見る村人
〈セリフ作成〉 助けを呼ぶ声。村人の反応。

⑥津波が去った後で村に降りると、地面はドロや砂だらけだった。

家々は流され、つぶされ、家の跡すらわからない所も多かった。防波堤の石垣は崩れていた。

※〈絵作成〉 村の惨状
〈セリフ作成〉 村を見た人々の声

⑦岩吉は、子どもたちのおかげで村人がたくさん助かったことで、子どもたちに感謝した。
この体験を子孫に語り伝えることも託した。

※〈絵作成〉 子どもたちにお礼をする岩吉

〈セリフ作成〉 岩吉の感謝の言葉と、後世に語り伝えることを頼む言葉

*安政東海地震…南海トラフを震源とする地震。8～9時頃発生。M8・4（推定）。

鳥羽で震度6（推定）。到達した津波の高さは、鳥羽で5m。

32 時間後に安政南海地震。

*古和浦の被害…家屋流失 124 軒。家屋倒壊 18 軒。隠居家 70 軒流失。

牛2匹と高札場流失。死者5名。

↑

家屋等の流失に比べ、死者が少ない。＝子どもたちのおかげ